

The 7th Circle of lifestyle related disease

日時 2021年 9月29日(水) 19:30~20:45

会場 ホテルモリノ新百合ヶ丘
川崎市麻生区上麻生1丁目1-1

開会の辞 19:30-19:35

すずき内科クリニック 院長

鈴木 健吾 先生

基調講演 19:35-19:50

座長

宮前平内科クリニック 院長

伊東 克彦 先生

『 心房細動脳塞栓への新しいアプローチ 』

演者

聖マリアンナ医科大学 循環器内科 病院教授

原田 智雄 先生

特別講演 19:50-20:40

座長

こう内科クリニック 院長

洪 基哲 先生

『 日常臨床における心房細動のマネジメント（仮） 』

演者

東京医科歯科大学 先進不整脈学講座 准教授

宮崎 晋介 先生

閉会の辞 20:40-20:45

福西内科クリニック 院長

福西 康夫 先生

主催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社



The 7th Circle of lifestyle related disease

基調講演 講演要旨

心房細動診療はこの10年でさまざまな角度からへのアプローチがすすみ、診断、治療に患者の背景に応じて選択することができる時代になっています。

当院では左心耳閉鎖デバイス留置術を開始し、アブレーションによる根治不能例、また抗凝固療法に向かない症例などに出血塞栓リスクを減らす治療法として期待しており、適応、方法につきご紹介いたします。

特別講演 講演要旨

心房細動は加齢と共に有病率が高くなる疾患であり、その合併はQOLの低下のみならず塞栓症や心不全を増加させ生命予後を悪化させます。

塞栓症の予防には抗凝固療法が行われますが、薬剤間でその特徴に差があるため上手に使い分ける必要があります。

リズムコントロールを行う場合には、近年急速に普及しているカテーテルアブレーション治療が主役ですが、アブレーション単独でのコントロールが難しい症例では抗不整脈薬と組み合わせます。

アブレーション治療は心房細動抑制に非常に有効ですが、まれに出血性合併症・塞栓症を起こし得るため、その周術期の抗凝固管理には術者は特別な注意を払わなければなりません。

日本の高齢化とともに心房細動に遭遇する機会は今後ますます増加すると思われ、本日は日常臨床でどのように対処すべきかをお話したいと思います。

